

『高齢者相談センターに寄せられる生活上の相談事からみる検討課題』から整理する

～ 今後の取り組み ～

1 行政を通じて対外的に協議をしていく課題

下記 (1)同行受診 ①病院の意向の確認

2 現存の資源の活用を進めていく事項 ・ 同時に、現状の情報を把握しておくもの

下記 (1)同行受診 ②シニアサポーター等の利用
(2)ペット関連

3 2層協議体等、地域で検討していく課題

下記 (3)担い手の充足の問題 ①現状の活動の情報収集
②自主的に立ち上がった活動団体が支援している内容は？
どのように立ち上がり、活動が維持されているのか。成功のヒントをつかむ。

4 長期的に、行政や生活支援コーディネーターが、関係者と連携して取り組んでいく課題

下記 (3)担い手の充足の問題 ③介護保険制度で利用できない支援内容で、ニーズがある支援をカバーするには
どうしたらいいか

* 第1層協議体(地域支え合い推進協議会)で意見交換をお願いします。

5 すぐには改善が見込めず、現状維持となりそうな課題

下記 (4)高齢者相談センターや担当ケアマネジャーが、直接対応せざるを得ないケース

(1) 同行受診

① 病院の意向の確認

- ・ 院内同行 ……院内ボランティア配置整備の現状と今後の見込み
- ・ 病状説明の立ち合い ……家族が立ち会えない場合の対応をどのように考えるのか

② シニアサポーター等の利用の可能性

- ・ どの範囲でなら、依頼できるか
- ・ 2週間ほど前までに依頼し、調整する。

(2) ペット関連

① ペットの餌や関連用品の買い物は、介護保険サービス以外の支援で賄うことになる。

ケースバイケースで対応をしていく。

- ・ シニアサポーターに依頼
- ・ 宅配業者を利用
- ・ 緊急性を訴えられたら、高齢者相談センターやケアマネジャーがやむを得ず対応している

(3) 担い手の充足の問題

① 現状の活動の情報収集

- ・ 各日常生活圏域特有の、事業者や活動団体の支援内容を把握する
社会福祉協議会支部活動 含む
- ・ 広域対応可能な活動を把握する
シルバー人材センター
宅配業者

② 自主的に立ち上がった活動団体が支援している内容は？ どのように立ち上がり、活動が維持されているのか。成功のヒントをつかむ。

他の地域でも同様の組織が作れそうか？

何をクリアしたら発足できるのか？

どのようなことをしてもらえる活動団体が必要か？

③ 介護保険制度で利用できない支援内容で、ニーズがある支援をカバーするにはどうしたらいいか

- ・ シニアサポーターの養成を通じて支援者を充実することが確実か
- ・ シルバー人材センター登録者の勧め
- ・ 社会福祉協議会支部 活動者の充実
- ・ 地域の活動者を確認し、現在の内容の充実(拡大)を依頼していくか

(4) 高齢者相談センターや担当ケアマネジャーが、直接対応せざるを得ないケースは、どのような対応ができる可能性があるのか。改善点や、資源開拓の余地はあるのか。

< 人員確保の問題 ・ 金銭的負担の問題 ・ キーパーソン不在の問題 >

- ・ 突発的な事項
- ・ 制度につながる前のケース
- ・ 金銭的余裕のないケース